



2022年度 教員紹介



情報システムや多種多様なデータの活用により、サステイナブルな社会を実現するための課題解決ができる人材を育成。

知識情報システム学類

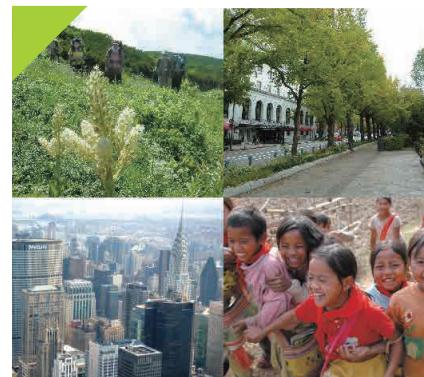
情報ネットワークや人工知能などの情報技術とともに、経済・経営などの社会科学、ヘルスケア、生産システムなどの応用分野に関する専門知識の理解を深め、これらの融合領域において、情報技術を活用することによって、自ら課題解決できる人材を育成していきます。



自然環境と社会環境を理解し、環境と調和したサステイナブルな社会を実現するための人材を育成。

環境社会システム学類

自然システムの持続可能性を理解するために必要となる自然環境学、社会システムそのものの成り立ちや変化を理解するために必要となる社会環境学、環境と調和した社会システムを構築するために必要となる環境哲学・政策学の観点から、サステイナブルな社会の実現に貢献できる人材を育成します。



誰も置き去りにせず、一人ひとりの尊厳とウェルビーイングを尊重する社会の実現に向けて活躍できる人材を育成。

教育福祉学類

複雑かつ深刻な社会問題に対し、福祉系・子ども家庭系および教育系を融合させた学びを展開します。さまざまな社会的背景を持つ人々との対話を組み込んだ実践的カリキュラムと原理的に捉える理論的カリキュラムとの組み合わせによって、多様な人々が共生する社会を実現する力を育てます。



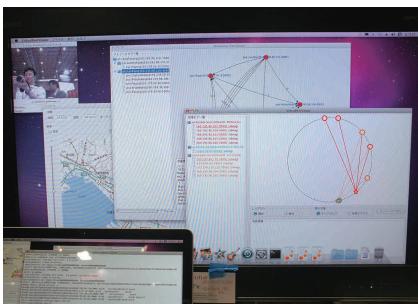
心に起因する問題を解決することの重要性を理解し、サステイナブルな社会の実現を他者と協働して目指す人材を育成。

心理学類

ヒトの心理面からサステイナブルな社会の在り方を考えます。他者や社会・文化との相互作用の中で抱える心に起因する問題に焦点を当て、心理学及び心理学関連分野の専門的知識と技能とシステム的思考を発揮し、課題解決を図ることができる人材を育てます。



主な研究テーマ

**分散システムのための分散アルゴリズム・分散データ構造
・基盤ソフトウェア****研究キーワード** 分散システム、分散アルゴリズム、分散データ構造、基盤ソフトウェア

ネットワークで接続された複数のコンピュータによってなんらかのサービスを提供するシステムを分散システムといいます。分散システムでは、複数のコンピュータ上で互いに通信しながら並行に動作するアルゴリズム—分散アルゴリズム—が使われます。本研究室では分散システムのための分散アルゴリズムや基盤ソフトウェアを研究しています。

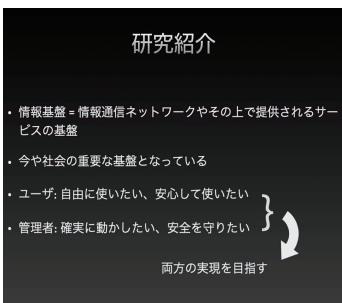


安倍 広多 教授

ABE KOTA

[研究室Webサイト](#) [活動の詳細](#)

主な研究テーマ

安全かつ使いやすい情報基盤に関する研究**研究キーワード** ネットワーク構築、ネットワーク管理、ネットワークセキュリティ

情報基盤、すなわち、インターネットに代表される情報通信ネットワークやその上の各種サービスは、多くの人が日常的に使用する、社会にとって不可欠な存在となっています。しかし、大規模化、複雑化する情報基盤を安全かつ確実に動かすことは容易ではありません。そこで、誰もが容易に安心して使える情報基盤、誤りなく確実に動作する情報基盤の実現を目指して、その構築・運用・管理手法などに関する研究を行っています。



石橋 勇人 教授

ISHIBASHI HAYATO



主な研究テーマ

生産システム(工場)における生産計画の最適化および受注量予測**研究キーワード** 生産システム、生産計画、シミュレーション、最適化

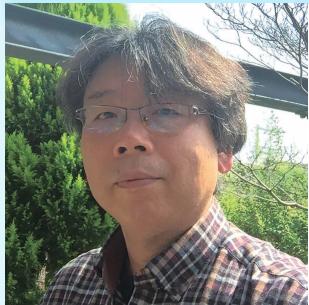
グローバルな競争環境において、他社より、安く、早く、高品質なものづくりを行うためには、高度な生産システム（工場）が必要となります。数理最適化やシミュレーションを活用することにより、生産システムを効率的に運用するための生産計画の作成手法について研究しています。また、小売店の売り上げの情報から、時系列モデルや人工知能を活用して生産システムの受注量を予測する研究なども行っています。



岩村 幸治 教授

IWAMURA KOJI

[研究室Webサイト](#) [活動の詳細](#)



太田 正哉 教授

OHTA MASAYA

活動の詳細

研究室Webサイト

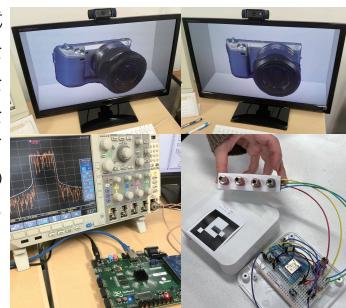


主な研究テーマ

情報通信システムに関するソフトウェア・ハードウェアの開発

研究キーワード 情報通信、6G&IoT、人工知能 (AI)、拡張現実 (AR)

本研究室では3つの研究をしています。1つ目は次世代通信方式6GやIoTの研究で、より高速に大量のデータを送信するための変復調アルゴリズムや回路実装技術を研究しています。2つ目は画像認識の研究で、人工知能を用いた物流向け高性能ピッキングシステムを開発しています。3つ目は拡張現実等を応用した教育システムの研究で、誰でも簡単に電気や情報に関する実験を行えるARツールを開発しています。



菅野 正嗣 教授

SUGANO MASASHI

活動の詳細



主な研究テーマ

センシングによって収集したデータを活用し、インテリジェントな環境を構築するための方式やアプリケーションを提案

研究キーワード センサネットワーク、IoT (Internet of Things)、バーチャルリアリティ、スマートシティ

センサネットワークによってあらゆるモノをネットワークに接続し、センシングしたデータを活用するIoT (Internet of Things)を実現するための方式や、収集したデータを活用して医療・教育などの分野で活用するためのアプリケーションを研究しています。特にVR (Virtual Reality)とセンサを組み合わせたリハビリテーションや、スマートシティを実現するためのデータ活用に興味があります。



瀬田 和久 教授

SETA KAZUHISA

活動の詳細

研究室Webサイト



主な研究テーマ

「コンピュータを賢く」と「ヒトを賢く」の両立

研究キーワード 思考スキルの学習支援、メタ認知、知的学習支援システム、ヒューマン・コンピュータインタラクション

高次思考スキルの学習支援を目指した技術を研究しています。算数や理科のように学習対象が明確に定まっているのではなく、何か曖昧でモヤモヤしている、そういう部分に興味をもっています。自分の処理していることを一段上のレベルから見て、なぜそのように動いているのかを理解することは、人間にとっても計算機にとっても重要だと思うので、この視点から「コンピュータを賢く」と「ヒトを賢く」の両立を目指しています。





主な研究テーマ

知能システムの開発と社会への応用

研究キーワード

機械学習、ソフトコンピューティング、RoboCup



機械学習、ソフトコンピューティングといった計算科学手法により、計算機を賢くする手法の研究に取り組んでいます。また、その手法を社会に実践する応用研究にも取り組んでいます。



中島 智晴 教授

NAKASHIMA TOMOHARU

研究室Webサイト

活動の詳細



主な研究テーマ

看護技術の暗黙知の形式知化と熟練技術学習支援システムの構築

研究キーワード

看護システム工学、ヘルスケアシステム、教育情報システム、教育工学



看護技術における熟練者の“わざ”を可視化・形式知化して、誰もが熟練の技術を身に付けられるような学習支援システムの開発に取り組んでいます。可視化のためにセンサーやデバイスを使用した計測、分析などを行います。分析したデータは学習者にわかりやすく加工して形式知化します。学習意欲を高め、楽しく学習効率を上げるとともに、人間性を育成できるようなそんな学習支援システムを目指しています。



真嶋 由貴恵 教授

MAJIMA YUKIE

研究室Webサイト

活動の詳細



主な研究テーマ

情報セキュリティ、情報システム工学、情報通信ネットワーク

研究キーワード

情報セキュリティ、情報システム工学、情報通信ネットワーク



複数のネットワーク機器や多数の情報システムを効率的に監視・運用するための運用管理システムの開発、情報システムへの不正侵入検知などの情報セキュリティを研究しています。



宮本 貴朗 教授

MIYAMOTO TAKAO

研究室Webサイト

活動の詳細







主な研究テーマ

(1) 個人の人生の記録 (2) 図書館における情報検索

研究キーワード 情報検索、人工知能、ユーザインターフェース

個人の人生を記録(人物に関連する情報を蓄積)することにより、情報学的に「人物(自己と他者)の理解」と「人生(よく生きること)」を支援する研究を行っています。情報(テキスト)の抽出と整理を中心に、Webインテリジェンス、ログなどを研究しています。学問分野は情報工学、図書館情報学、認知科学・心理学にまたがっています。

◆Webインテリジェンス ◆ライログ
◆氏名を入力してWeb上から情報を取得し、履歴書を作成、地図上に表示
◆カレンダー、Twitter、LINEなどから情報を抽出して記憶の想起を支援



主な研究テーマ

データサイエンスに関する応用的研究

研究キーワード データサイエンス、シミュレーション、社会科学

データサイエンスに関する社会科学領域の研究を行っています。社会科学の分野には、スーパーなどで収集されるPOSデータから、都市における人の移動データなど様々なデータがあります。そのためデータの種類や特性、そして必要とされる目的によって、様々な手法を活用する必要があります。研究においては、実用性に重点をおきながら、既存の手法なども利用して最適な手法を開発し、社会において有用な研究を目指しています。

森田 裕之 教授
MORITA HIROYUKI

活動の詳細 [研究室Webサイト](#)

QRコード

QRコード

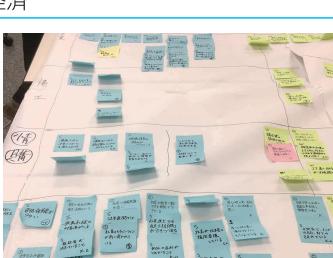


主な研究テーマ

情報技術の評価、経済やビジネスへの応用

研究キーワード 情報システム評価、技術経営、情報経済

情報技術の経済やビジネスへの応用を研究しています。ブロックチェーン技術やAIなどによるDX(デジタル変革)化の成功要因、特許、情報システム評価、ビジネスモデルについてデータサイエンスの手法を用いて分析しています。情報技術の応用であれば、エンターテイメントやスポーツなども分析対象としています。



活動の詳細

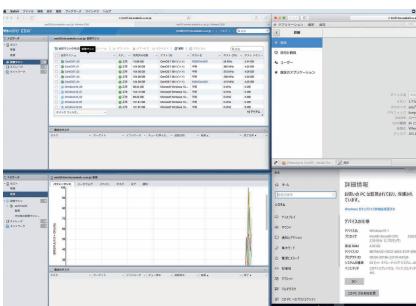
QRコード



主な研究テーマ

情報システムの開発・運営と情報セキュリティに関する研究

研究キーワード 情報システム工学、情報セキュリティ、パターン認識



学内の学生や教職員が利用する様々な情報システムの開発と安心安全な情報システムを企画・構築・運用する方法、更に情報システムの利用状況や情報システム内に保存されている情報をパターン認識技術を応用して解析する方法について研究しています。



青木 茂樹 准教授

AOKI SHIGEKI

研究室Webサイト

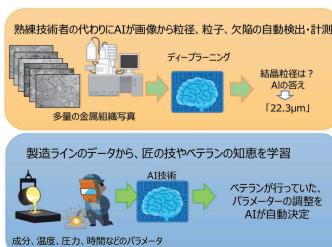
活動の詳細



主な研究テーマ

材料情報学による新材料の設計、プロセスの最適化、計測の自動化

研究キーワード データサイエンス、材料工学、機械学習、第一原理計算



材料に関する大量の情報を活用する取り組みを材料情報学(マテリアルズ・インフォマティクス)と言いますが、新材料の設計、材料製造プロセスの最適化、材料計測の自動化を研究しています。第一原理計算によるデータベースと機械学習により材料設計のコストを大幅に削減する技術の開発、素形材の材料特性に影響する製造プロセスの影響因子を最適化するシステム、自動で金属組織を評価する人工知能の開発に取り組んでいます。



上杉 徳照 准教授

UESUGI TOKUTERU

研究室Webサイト

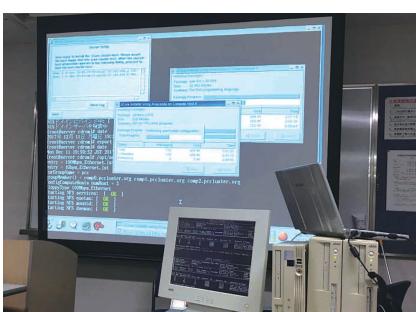
活動の詳細



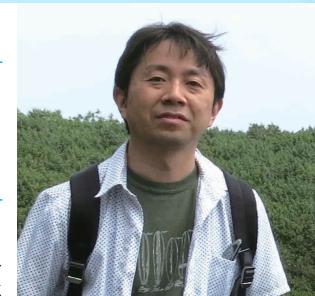
主な研究テーマ

ネットワーク環境上の計算機を効率的に利用することに関する研究

研究キーワード 分散処理、数理最適化、計算資源管理運用



販売員が訪問先を効率よく巡る経路を見つける問題等に代表される組合せ最適化問題を対象とし、複数の計算機を効率よく利用して適切な解をより早く見つける研究をしています。高価で利用に特別な技術が必要な専用環境ではなく、一般に広く利用され、入手も容易な環境を使って構成し必要な人が容易に最適化問題を扱えることを目指します。



大西 克実 准教授

ONISHI KATSUMI

活動の詳細





小島 篤博 准教授

KOJIMA ATSUHIRO

活動の詳細



主な研究テーマ

ICTを利用した先進的な教育情報システムの開発

研究キーワード 教育情報システム、プログラミング教育、人文系データベース

3DCGやVRを利用した教師アバターによる効果的な動画教材を作成するためのシステム、iPadなどのタブレットと専用サーバを利用し、多人数で同時に心理学実験を行うためのシステムを開発しています。また、学術的な写真画像を地図上から検索可能な人文系データベースを開発し、本学の「中尾佐助スライドデータベース」として公開しています。



佐賀 亮介 准教授

SAGA RYOSUKE

活動の詳細 研究室Webサイト



主な研究テーマ

データ利活用および社会実装のための技術開発

研究キーワード データ工学、経営情報システム、情報可視化、サービスサイエンス

データ利活用のための手法やそれをシステムとして展開するための方法を研究しています。環境に合わせて、最新の人工知能から古典的な手法まで活用して技術選択をし、最終的な社会実装を考慮したトータルデザインを作成していきます。例えば、ネットショッピングでの推薦システム(Recommender System)の開発や、テキストからサービス評価につながる因果関係抽出や推論、ほか、大規模なデータ理解を助けるための情報可視化など幅広く実施しています。



永田 好克 准教授

NAGATA YOSHIKATSU

活動の詳細

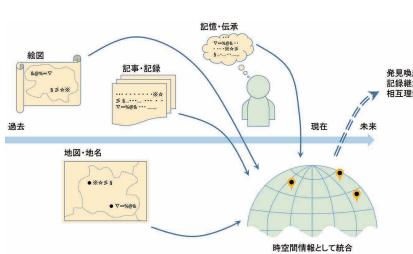


主な研究テーマ

空間情報を活用した歴史的な情報の統合と多様性の分析

研究キーワード 人文情報学、地域情報、空間情報システム

現代の社会生活は地域社会の歴史の延長線上にあります。過去の出来事、元來の自然・社会環境を伝える地名、地域住民の来歴や移動などを空間情報として統合し分析することは、地域の多様性を理解し尊重する社会を目指すうえで重要です。次世代に継承する空間情報基盤を築く研究です。





主な研究テーマ

高度知的活動を目掛けた知的インタラクション支援

研究キーワード 知的学習支援システム、多人数マルチモーダルインタラクション、メタ認知活動支援、創造的活動支援



現代社会には一人の力では解決できない複雑な課題が溢れています。こうした問題に立ち向かう学習者とそれを支える教育システムを研究対象として、批判的思考、協調的問題解決、メタ認知といった高度なスキルを育むための学習活動の分析・モデリングや、これらのスキルを育む「補助輪」としての学習プロセスの設計、知的学習支援システムの開発に取り組んでいます。



林 佑樹 准教授

HAYASHI YUKI

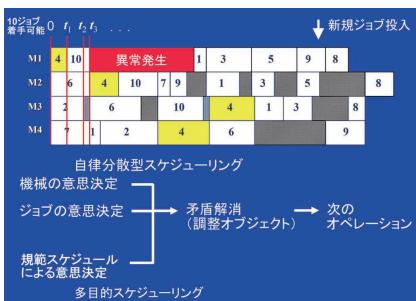
[研究室Webサイト](#) [活動の詳細](#)



主な研究テーマ

生産システムにおける効率的かつ柔軟な設計・運用法の開発

研究キーワード リアルタイム生産スケジューリング、設備レイアウト、最適化手法、メタ戦略



日本のものづくりを支える種々の生産管理手法の開発に取り組んでいます。中でも部品や製品を効率的かつ柔軟に生産するための不確実環境下におけるリアルタイム生産スケジューリングや工場におけるものの流れの低コスト化をダイナミックに図る設備レイアウトについて研究しています。



平林 直樹 准教授

HIRABAYASHI NAOKI

[研究室Webサイト](#) [活動の詳細](#)



主な研究テーマ

情報通信技術の活用による全ての人が住みやすい地域づくり

研究キーワード 健康教育(保健教育)、情報把握方法(地域情報など)、地域づくり



ロボットやアプリ等の情報通信技術を用いた病気の予防や地域情報の把握方法、地域づくりについての研究をしています。地域の人々を繋ぎ孤立を防ぐための情報通信技術の活用方法について興味を持っています。



榎田 聖子 准教授

MASUDA SEIKO

[活動の詳細](#)





森永 英二 准教授

MORINAGA EIJI

活動の詳細

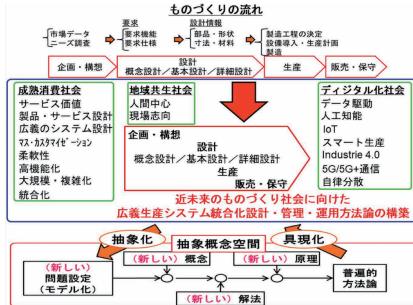


主な研究テーマ

広義の生産システムの統合最適化方法論の構築

研究キーワード 計算機支援概念設計、統合化生産システム設計、自律分散型生産管理

これから時代は、あらゆる物事を「システム」として捉え、構成要素の個別最適化ではなく、物事全体の統合最適化を追求することが、一層重要になります。この視点に立ち、生産システム、人工物システムを主な対象として、広義の生産、広義の設計の切り口から、システムの設計、解析、制御、運用、管理の方法論の構築を目指して研究に取り組んでいます。



柳本 豪一 准教授

YANAGIMOTO HIDEKAZU

活動の詳細



研究室Webサイト



主な研究テーマ

知識処理システムの研究開発

研究キーワード 機械学習、自然言語処理、人工知能

インターネットが一般化するにつれて、言語データ、画像、動画、数値データなど様々なコンテンツが流通しています。このような多種多様な大規模データから利用者が必要とする知識を円滑に処理する必要が高まっています。研究室では自然言語処理や機械学習などの最新技術を活用し、知的な情報処理によりデータの背後に潜む構造に基づいたデータ解析の実現とその技術の実社会への幅広い応用を目指しています。



吉田 大介 准教授

YOSHIDA DAISUKE

活動の詳細



主な研究テーマ

地理空間情報を活用した防災・減災、インフラ維持管理等への応用

研究キーワード 地理情報システム(GIS)、全球測位衛星システム(GNSS)、防災・減災、ドローン

自治体（特に大阪府や大阪市）や民間企業と連携し、橋梁や護岸などの様々な都市インフラを、ドローンや地理情報システム（GIS）等のICTの活用により、効率的かつ安全に維持管理が行える手法について研究しています。

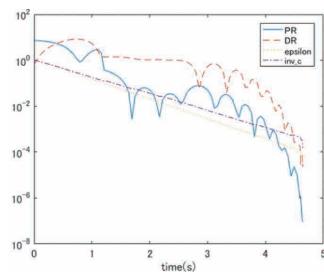




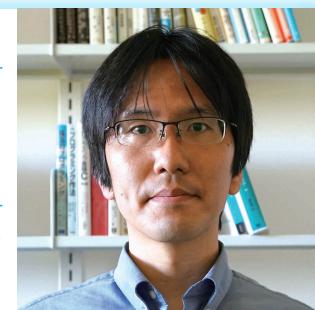
主な研究テーマ

数理モデリング技術に基づいたデータ分析手法の開発

研究キーワード データ分析、数理最適化、機械学習、意思決定支援



データ分析技術は様々な分野や組織で活用されるようになり、その多様化・高度化が求められています。一方で、数理最適化に基づくモデリング技法とアルゴリズムは、社会の諸問題の解決のために研究されてきましたが、その技術は多様で高度なデータ分析手法の開発にも有効です。数理最適化の技術を用いて、データ分析、人工知能、意思決定支援などに対する新しいアプローチを提案することを目的として、その基礎研究を行います。



楠木 祥文 講師

KUSUNOKI YOSHIFUMI

[研究室Webサイト](#) [活動の詳細](#)





青木 賦鶴子 教授

AOKI SHIZUKO

[活動の詳細](#)



主な研究テーマ

平安時代文学の受容史

研究キーワード 日本文学、絵巻、受容史、注釈史

桜の花の散るのを惜しみ、中秋の名月を愛でる日本人の美意識は、平安時代から変わりません。平安時代の代表的な文学である伊勢物語や源氏物語は、後の時代の文学・芸能・美術などに広く深く影響を与え続けました。またどの時代にも愛好されたので、たくさんの絵巻や絵本などが作られました。国内外に残る絵入本や注釈書を調査し、平安時代の文学がどのように読まれてきたのかを研究しています。



秋庭 裕 教授

AKIBA YUTAKA

[活動の詳細](#)



主な研究テーマ

宗教から社会を理解する

研究キーワード 宗教、社会、グローバリゼーション、共生

欧米に展開する日本宗教を調査研究しています。ここでいう「宗教」とは、特定の教団や宗派のことではありません。古今東西人類は、なぜ神や聖なるものを祀り崇めてきたのか。じつは宗教は、「社会」的なるものの凝集体、エッセンスなのです。社会という人間の集まりは、「それ」がなければ成り立たない。「それ」は社会の「秘密」なのです。



2014/9 シチリア・カターニャ調査のひととき



生田 英輔 教授

IKUTA EISUKE

[活動の詳細](#)



主な研究テーマ

災害時的人的被害発生メカニズムの解明と対策

研究キーワード 災害時的人的被害、コミュニティ防災、防災教育

地震を中心とした災害時に、どのようなメカニズムで人的被害が発生し、どのようにすれば人的被害を防ぐことができるのかを研究しています。阪神・淡路大震災から東日本大震災・熊本地震まで、人的被害の詳細を明らかにすることを目的として被災地で調査を行ってきました。家屋倒壊や家具転倒による人的被害に関する研究、避難行動や災害に強い地域コミュニティの形成などがおもな研究テーマです。

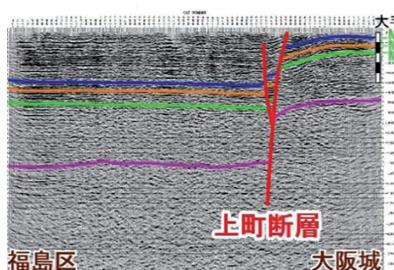




主な研究テーマ

プレート収束境界での構造発達史を解明する

研究キーワード 地質学、テクトニクス、変動帯、自然災害



我々の住む日本列島は沈み込む海洋プレートの縁辺に沿って延びており、地震や火山噴火など多様な自然災害が頻発します。そのメカニズムを、フィールドワークに基づく地質学と重力・地磁気・地震波データの解析に基づく地球物理学を組み合わせて研究し、断層活動度や地盤特性など防災に関する評価を行っています。



伊藤 康人 教授

ITOH YASUTO

[活動の詳細](#)



主な研究テーマ

水問題の解決に向けたソフトな対応策

研究キーワード 河川水、地下水、コモンズ、ガバナンス



世界には様々な水問題が存在します。これまで水問題への対応策といえば、ダム・導水路・下水道施設といった社会基盤による「ハードな対応策」でした。私はこの解決策を補完するものとして、水の利用ルールの整備といった「ソフトな対応策」を研究しています。



遠藤 崇浩 教授

ENDO TAKAHIRO

[活動の詳細](#)



主な研究テーマ

海洋深層水の多目的利用／海産バイオマス有効利用システム

研究キーワード 海洋環境、海洋資源、持続可能性



グローバル（地球規模）な研究として、数100m以深の海に存在する海水（海洋深層水）を用いて、水・食糧・エネルギーを生み出すシステムの環境影響評価に関する研究を行っています。またローカル（地域）な研究として、大阪湾における海水中の栄養分の偏りを解消するため、メタン発酵技術等を用いた海産バイオマス（大量に発生し環境問題を引き起こす生物や漁業系廃棄物など）有効利用システムを構築する研究を行っています。



大塚 耕司 教授

OTSUKA KOJI

[研究室Webサイト](#)

[活動の詳細](#)





大山 克己 教授

OYAMA KATSUMI

活動の詳細



主な研究テーマ

農業分野のスマート化による生産性向上

研究キーワード 生産管理、植物工場、施設園芸、資源利用

私たちの生活の基盤となる食糧を供給するためには、農業は必要不可欠です。しかし、農業は、他産業と比べて、生産性が低いことが問題となっています。この生産性が低いという課題を解決するために、私たちは、ICT (Information and Communication Technology) を活用したスマート農業に関する研究を進めています。



興津 健二 教授

OKITSU KENJI

活動の詳細

研究室Webサイト

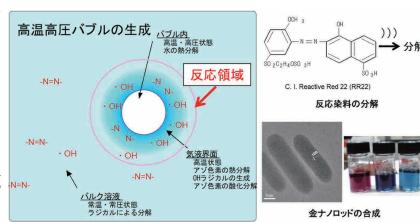


主な研究テーマ

超音波バブルを利用する水浄化技術と金属ナノ粒子合成技術の開発

研究キーワード 超音波キャビテーションバブル、水浄化技術、金属ナノ粒子合成技術

水に高出力超音波を照射すると数千度以上・数百気圧以上の温度と圧力を有するマイクロバブル（高温高圧バブル）を生成させることができます。私たちは高温高圧バブルの物理化学的性質を明らかにすると共に、高温高圧バブルを利用する有害有機化学物質の分解技術の開発や、環境問題・エネルギー資源問題の解決に役立つナノ材料の合成やバイオマスの改質に関しての研究に取り組んでいます。



酒井 隆史 教授

SAKAI TAKASHI

活動の詳細



主な研究テーマ

社会思想史、都市史

研究キーワード 権力、暴力、資本主義、都市、混沌

専攻は社会思想史、都市史。主要著作に、『完全版自由論』(河出文庫、2019年)、『暴力の哲学』(河出文庫、2016年)、『通天閣——新・日本資本主義発達史』(青土社、2011年)。訳書には、デヴィッド・グレーバー『ブルシット・ジョブ』(岩波書店、共訳)、『官僚制のユートピア』以文社、『負債論』以文社(監訳)、スラヴォイ・ジジエク『否定的なもののもとへの滞留』ちくま学芸文庫(共訳)、マイク・ディヴィス『スラムの惑星』明石書店(監訳)など。





主な研究テーマ

都市や自然地域での景観計画・デザイン、緑地計画とまちづくり

研究キーワード 景観計画、緑地計画、ランドスケープ・デザイン、まちづくり



都市域、田園地域、自然地域では、自然環境や社会環境、生活文化など環境特性が異なります。これら地域での緑環境等の自然条件、土地利用や人口等の社会条件、歴史的・文化的資源、景観面、人々の生活・コミュニティなどをフィールド調査や文献調査を通じて現状を分析します。それらの結果を用いて、地域固有の環境再生に向けた都市計画や緑地計画、景観計画・デザイン、市民参画型まちづくりに関する研究を行っています。



下村 泰彦 教授

SHIMOMURA YASUHIKO

[活動の詳細](#)



主な研究テーマ

歴史学、日本近現代史研究

研究キーワード 大正デモクラシー、国体論、天皇制、原子力開発史



過去の出来事について、その存在の意味と変化の理由を探求することが歴史学の使命です。存在の意味と変化の理由はともに関連しあいます。なぜ時代の変化が起きるかは、その存在の意味(構造)に起因するからです(逆にその存在は変化の結果でもあり、存在と変化は相互に依存します)。そう考えるのが歴史学的な見方なのです。そう考えながら、近代とは何か、それを19～20世紀の日本の歴史に即して研究しています。とくに最近では、日本の近代にとってなぜ天皇が必要であったのかを考えています。



住友 陽文 教授

SUMITOMO AKIFUMI

[活動の詳細](#)



主な研究テーマ

アメリカ文学・文化、日米文化交渉

研究キーワード アメリカ文学・文化、日米文化交渉、文化環境



もともと私は伝統的な文学研究（フォークナー研究）から出発したのですが、アメリカという国の影響力の極大化（グローバリゼーションと呼ばれています）に伴い、アメリカ文学研究は、文学研究の枠内にとどまることができなくなりました。文学をその一部に含むアメリカ文化が現代社会においてどのような（創造的な／破壊的な）影響を与えていたのかを研究することは、私たちをとりまく文化環境を考える重要な鍵となるでしょう。



相田 洋明 教授

SODA HIROAKI

[活動の詳細](#)





高木 佐知子 教授

TAKAGI SACHIKO

活動の詳細



主な研究テーマ

社会や文化に根差した談話研究

研究キーワード 談話分析、語用論、言語コミュニケーション

日常会話や映画・ドラマ・小説などのフィクションおよび新聞・雑誌・インターネットの記事などの現実の言語使用における、言語の機能について研究を行っています。言語そのものの意味だけでなく、言語外の意味をどのように解釈するのか、また、現実の社会状況は言語表現でどのように切り取られ、それはどのようなメッセージとして提示されているのかを明らかにすることを目指しています。

DISCOURSE ANALYSIS
OF JAPANESE
TV INTERVIEWS
Interviewers' Strategies to Develop Conversations

Sachiko Takagi



竹中 規訓 教授

TAKENAKA NORIMICHI

活動の詳細

研究室Webサイト



主な研究テーマ

大気及び水中の微量物質の新規測定法の開発と反応の解明

研究キーワード 環境化学、相変化、微量分析

身の回りで起こっている様々な現象を化学の力で解明することを基本に、様々なテーマを取り組んでいます。環境中の気体と水とが関与する現象がメインですが、固体、液体、気体すべてがターゲットで、特に相変化中に起こる化学反応の研究は世界的にも珍しく、世界をリードしています。身近な環境から、生駒山、ベトナム、南極まで幅広くフィールド調査もしています。



フィールドでのチェンバー実験 @ 南極大陸



中山 祐一郎 教授

NAKAYAMA YUICHIRO

活動の詳細



主な研究テーマ

高山における侵入植物対策、都市緑地における絶滅危惧植物の保全

研究キーワード 雜草生物学、保全生態学、絶滅危惧植物、侵略的外来種

身の回りに生育する雑草性植物を対象に、それらがどのようにして誕生し、どのように生活しているか、人とどのように関わっているのかを野外調査と分子遺伝学的分析を組み合わせて調べ、人が楽しく健康に生きていくための恵みをもたらしてくれる生物多様性を持続的に活用していく方法を探っています。





主な研究テーマ

日本語および日本語行動の地域的・社会的多様性に関する研究

研究キーワード 日本語、言語行動、多様性



彼岸花の名称（関西）

言語は不安定で個人差も大きなものです。その中で、日本語や日本語による言語行動の多様性を、様々な調査・分析方法によって捉えます。そして、その多様性の意味を考えていきます。言語表現やことば使いの変容や地域差、場面差などを、時代や地域社会のコミュニケーションやコミュニティのあり方と関連付けるというアプローチから日本語の諸相を読み解きます。



西尾 純二 教授

NISHIO JUNJI

活動の詳細



主な研究テーマ

身体・移動・場所に関する文化地理学研究

研究キーワード 文化地理学、場所、身体、文化遺産



私たちは常に場所と関係を持ちながら生きています。その関係は、人間にとて普遍的なものではなく、個人の心身の状況や社会的な位置によって異なります。また、社会状況が変化すると場所のあり方も変化します。過去の場所をいかに記憶しているのか、多様な身体を介して私たちはどのように場所と関係をもつているのか、集合的アイデンティティと場所とはどのようにかかわっているのか、文化地理学の視点から解明かしていきます。



福田 珠己 教授

FUKUDA TAMAMI

活動の詳細



主な研究テーマ

都市の経済・産業およびその変化についての地理学的研究

研究キーワード 経済地理学、都市、産業立地、産業集積



都市というものは人々や組織が、お互い近くに立地していることに特徴があります。情報技術が発展した現在、近くに立地すること（集積）の利益には変化があるのでしょうか。また、都市の歴史の違いは、発展の方向にどのように違いをもたらすのでしょうか。こうした都市・産業の発展を地理という視点から研究しています。



水野 真彦 教授

MIZUNO MASAHIKO

活動の詳細





宮脇 幸生 教授

MIYAWAKI YUKIO

活動の詳細



主な研究テーマ

環境と人間の相互作用から見る人類学的研究

研究キーワード 文化人類学、アフリカ、農牧社会

ヒトの生活は周囲の環境とのどのような相互作用のなかで構成されているのか。それを、エチオピア西南部の農牧社会の研究を通して明らかにしようとしています。ヒトと生態系との関係、ヒトと国家との関係、グローバルな交易網との関係。多様な関係の束のなかで、人々の生がどのように構成されていくのかについて、関心をもっています。



上柿 崇英 准教授

UEGAKI TAKAHIDE

活動の詳細 研究室Webサイト

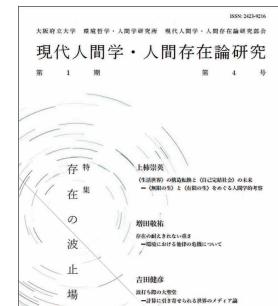


主な研究テーマ

人間学に基づきられた環境哲学

研究キーワード 環境哲学、現代人間学、持続不可能性、信頼の哲学

われわれはいかなる時代を生きているのか、またこの時代に人間をいかなるものとして理解するのか。これらの問いに新たな意味と言葉を与えていくのが〈思想〉の役割です。「人間学に基づきられた環境哲学」においては、環境危機の問題のみならず、現代科学技術が引き起こす〈生の自己完結化〉や〈生の脱身体化〉を含む人間の存在のあり方をめぐる問題について、700万年の人類史のスケールから読み解きます。



工藤 宏司 准教授

KUDO KOJI

活動の詳細



主な研究テーマ

社会問題・逸脱現象の社会学的研究

研究キーワード 社会問題・逸脱、不登校、ひきこもり、社会構築主義

人が特定場面から自ら撤退する現象にずっと関心があります。具体的にこれまで考えてきたのは「不登校」「ひきこもり」そして近年では、政治参加からの撤退を選ぶ若い人たちがもっている合理的な思考の内実と、それが社会的な構造の影響下でどのように形作られ、また、どのように変容していく可能性があるのか、について考えています。





主な研究テーマ

海藻や魚とともに豊かな海を考える

研究キーワード 海藻のメタン発酵、漁業・魚食の活性化、持続可能性評価



海陸一体型物質循環型社会のコンセプトを掲げ、海を利用し海と共生する人間活動のあり方を追究しています。微生物の力で海藻からエネルギーを生み出す研究や地魚を美味しく食べることを通して魚食や漁業の活性化に取り組んでいます。



黒田 桂菜 准教授

KURODA KANA

[研究室Webサイト](#) [活動の詳細](#)



主な研究テーマ

不法行為法のうち、特に人身損害賠償（日本法、フランス法）

研究キーワード 不法行為法、人身損害賠償、民事責任、非財産的損害の把握



交通事故や公害などで人の生命や身体が害された場合に、被害者が加害者に請求できる損害賠償の算定対象を研究しています。特に非財産的損害という無形損害の把握に関する評価方法やその算定過程を、フランス法と対比させながら分析しています。



住田 守道 准教授

SUMIDA MORIMICHI



主な研究テーマ

環境問題に向き合い、取り組むための政策とガバナンスを考える

研究キーワード 環境政策、環境ガバナンス、海洋ごみ、地下水



海洋ごみ、地下水を中心とする水資源リスク、生物多様性の損失といった環境問題について、政策やガバナンスの視座から研究しています。人間と自然の関係性は極めて複雑であるため、不確実性を残しながらも前に進むための制度や政策、価値判断、主体間の合意形成などについて考えたいと思っています。また、いかに専門知を人々に伝え、対話と協働を進めていくのかというコミュニケーションの方法論や実践にも関心を抱いています。



千葉 知世 准教授

CHIBA TOMOYO





天畠 華織 准教授

TEMBATA KAORI

活動の詳細



主な研究テーマ

環境経済学・気候変動の影響に関する研究

研究キーワード 環境問題、経済学、気候変動、自然災害

なぜ環境問題が起こるのか？それには人間の経済活動が深く関わっています。そのため、環境問題およびその解決策について議論するには、その背景にある経済のしくみを理解していくことが欠かせません。私の研究テーマである環境経済学では、経済学の視点から環境問題について考察、分析します。こうした環境経済学のアプローチを用いて、特に気候変動の影響やそのメカニズム、適応に関する研究をおこなっています。



西川 弘展 准教授

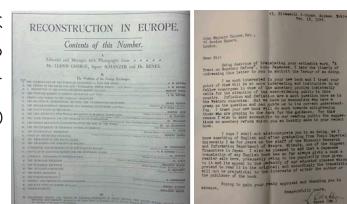
NISHIKAWA HIRONOBU

主な研究テーマ

経済学の歴史および基礎的側面についての研究

研究キーワード J.M.ケインズ、貨幣理論史、マクロ経済学史、貨幣制度論史

経済学は、誕生以来およそ250年の歴史の中で、現実的な政策課題への対応と、学問そのものが提起する内的矛盾や問題の解決という2側面からの要請により、展開を遂げてきています。こうした見地から、主にJ.M.ケインズの経済学を中心に、経済学の歴史的側面、すなわち「新しい」といわれた学説が、どのように生まれ、伝播し継承され、また変貌してきているのかを研究しています。



ケインズが深く関与した「マンチェスター・ガーディアン・コマーシャル」誌の「ヨーロッパ再建特集号」(第1部)の目次(左)
「貨幣改革論」の邦訳者の一人である岡部管司からケインズ宛の書簡(右)



花村 周寛 准教授

HANAMURA CHIKAHIRO

活動の詳細

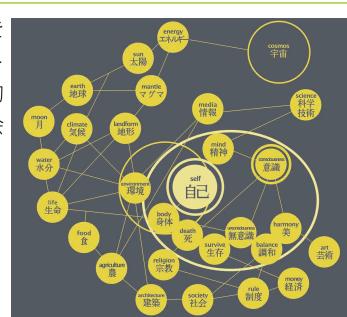


主な研究テーマ

人間のまなざしと環境との関係性から、自然環境から社会環境まで包括的に取り上げ、デザインという観点から解決を試みる

研究キーワード 風景異化論、デザインサイエンス、生命表象学

環境とそれに向けられる人間の認識から成る風景をデザインするという観点で研究しています。現代アートの手法を用いた環境の異化やデザイン、データや哲学的な思考を用いた認識の異化など、人間の内面から社会環境、自然環境までを包括的に把握する研究に取り組んでいます。





主な研究テーマ

人と自然の関わりをめぐる文化・社会・政治

研究キーワード 政治生態学、環境の社会学・人類学、東南アジア地域研究



タイを中心とした東南アジアで、森林の持続的利用・保全や自然再生について、文化や社会という側面から研究しています。大きなスケールでの環境保護政策が、地元の人々がのぞむ生活環境のあり方との齟齬、そこに生じるソフトな権力を分析しています。最近は、日本の里山をめぐる表象の政治性についても研究しつつあります。



藤田 渡 准教授

FUJITA WATARU

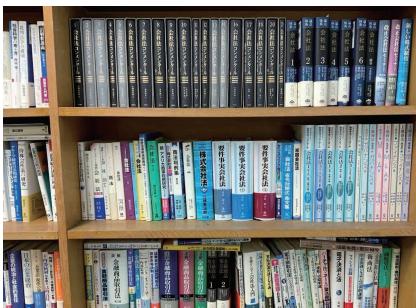
[活動の詳細](#)



主な研究テーマ

商法学、特に会社法および金融商品取引法

研究キーワード 会社法、金融商品取引法、会社役員の責任、コーポレート・ガバナンス



経済社会の持続的な発展に向けて、その中心となる企業に社会的役割を果たしてもらうためには、法令等を通じた一般的な規律付けが欠かせません。企業内部の権限分配や義務・責任の分担、紛争が起きた際の適切な処理方法などに関して、どのようなルールを作り、どのように運用すればよいかを研究しています。



古川 朋雄 准教授

FURUKAWA TOMOO

[活動の詳細](#)



主な研究テーマ

ヒトと動物との共生

研究キーワード 応用獣医学、公衆衛生学、食品衛生学、ヒトと動物との共生



ヒトと動物との軋轢を解消し、良好な共生関係を構築するための研究を行っています。飼い主のいない猫（野良猫）、外来種および有害鳥獣に関する問題について、野外調査および室内で行った実験のデータをもとに、ヒトと動物が良好な共生関係を築くための方法及び対策について研究します。また、小型鯨類等の飼育動物の健康維持管理を目的とした、腸内・呼吸器細菌叢の解析を行っています。

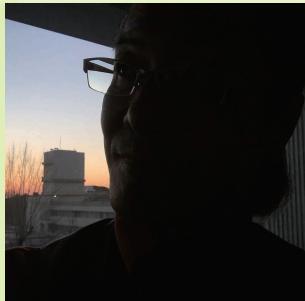


星 英之 准教授

HOSHI HIDENOBU

[活動の詳細](#)



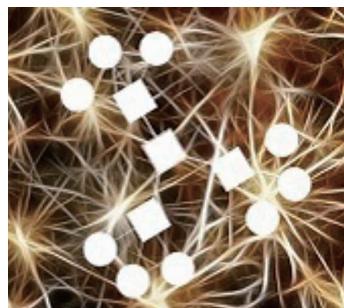


主な研究テーマ

ことばに熱いまなざしを向け、人間の精神の営みを紐解きます

研究キーワード 認知意味論、多義の分析と記述、レトリック

ことばは人間が長い年月をかけて生み出したものです。したがって、そこには人間そのものが刻み込まれています。わたしたち人間が長年積み重ねてきた認識と思考が凝縮されています。ふだんわたしたちは、それを当たり前のように思い…いや、当たり前のこととさえ気づかず意識しませんが。さあ、ことばへの感覚を研ぎ澄まして、そこに脈打つ人間の鼓動に気づいてみましょう！



宮畠 一範 准教授

MIYAHATA KAZUNORI

[活動の詳細](#)



主な研究テーマ

人や動物の生命と生きることについての倫理と技法、フランス社会

研究キーワード 生権力、統治性、バイオテクノロジー、生殖

近現代の生命科学・医療・技術について、生命・生殖・障病異・倫理にかかわる様々な争点と社会との関係に注目し、思想哲学的アプローチもとりながら研究しています。生と生存の思想と技法を探求し、「常識」というものを問い合わせて、新しい生命論と倫理の構築可能性をひらくことをを目指しています。今後しばらくは、越境し変容する現代的な生物観ないし人間観を思考する試みに取り組んでいきます。



山本 由美子 准教授

YAMAMOTO YUMIKO

[活動の詳細](#)

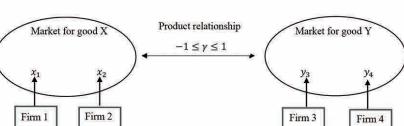


主な研究テーマ

観光資源や自然環境などの共有資源への投資と参入規制

研究キーワード 混合寡占市場、広告競争、参入規制

私が研究している産業組織論やビジネスエコノミクスは「なぜ、せっかく作った作物を捨てるの？」であったり「なぜ、赤字なのに生産をやめないの？」などのビジネスの世界で起こっている様々な現象を経済学のツールを用い考える学問です。



吉川 丈 准教授

YOSHIKAWA TAKESHI

[活動の詳細](#)





主な研究テーマ

都市から自然地域の空間や景観の計画・デザインにアプローチ

研究キーワード

都市計画・デザイン、景観論、景観まちづくり、ランドスケーププランニング



居住特性、土地利用、人々の生活文化などの分析を手掛かりとした都市・地域計画の計画技術構築、都市・地域をフィールドとした景観や空間の計画・デザインについて、理論と実践の両輪で取り組んでいます。景観論や設計技術の応用をはじめ、地域協働での景観まちづくりやコミュニティデザイン、歴史文化・建築などの街並み・人々の生活の営みから捉えた文化的景観の継承や保全、都市形成史に関する研究実践にも取り組んでいます。



阿久井 康平 助教

AKUI KOHEI

活動の詳細



主な研究テーマ

大気エアロゾルの性状特性の解明及び大気環境への影響評価

研究キーワード

大気環境、ヘイズ、東南アジア、微小粒子状物質



一般的に、大気中に浮遊している粒子状物質（大気エアロゾル）の発生源は多岐にわたり、異なる（化学・物理・光学等）性状を有する多種多様なエアロゾルが大気中に存在しています。現在、東南アジア地域において、バイオマス燃焼から発生するエアロゾルの性状特性の解明・大気環境への影響について注力して研究に取り組んでいます。



藤井 佑介 助教

FUJII YUSUKE

研究室Webサイト

活動の詳細





伊井 直比呂 教授

II NAOHIRO

活動の詳細



主な研究テーマ

子どもの権利条約やユネスコ国際教育が示す「人権としての教育」

研究キーワード 憲法政策、子どもの権利条約、UNESCO 国際教育、人権としての教育

原理として、「人権としての教育」とはどのような制度・形態・実践によって実現できるか、などを研究しています。このため、人権論、子どもの権利条約28条等の「教育」定義の国内定着、憲法26条「教育を受ける権利」「學習権」の再解釈を基盤としています。これら基礎研究は、ESDにおける「教育の再方向性」やSDG'sの「教育の質」(目標4)と深く関係しています。つまり教育の質は教育する側が規定してはいけない、ということです。



伊藤 嘉余子 教授

ITO KAYOKO

活動の詳細



主な研究テーマ

社会的養護を必要とする子どもたちへの支援

研究キーワード 社会的養護、施設養護、家庭養護、里親養育

親の死亡や行方不明、親からの虐待や貧困など様々な理由によって、親・家族と一緒に生活できない子どもを親に代わって社会で育てる仕組みが「社会的養護」です。社会的養護を必要とする子どもたちに必要な生活/養育/ケアはどうあるべきか、またそれを担う養育者(施設職員/里親等)に必要な資質や専門性は何か等について研究しています。



児島 亜紀子 教授

KOJIMA AKIKO

活動の詳細



主な研究テーマ

社会福祉原理論、福祉哲学、社会福祉とジェンダー

研究キーワード 社会福祉原理、ジェンダー、社会福祉理論

社会福祉の支援とは結局のところ誰の何をどうすることなのか、社会福祉の価値規範とは何によって規定されるのか、社会福祉におけるジェンダー平等はどのようにしたら達成可能なのか…といった類いの問いは、素朴であるがゆえに答えにくい問い合わせであるといえます。こうしたいわば「そもそも論」を研究するのが社会福祉原理論です。「社会福祉とは何か」という大きな問い合わせを切り分け、答えを探っていく作業はとても刺激的です。





主な研究テーマ

フレイルに関する研究／病いとともに自分らしく生きるための支援

研究キーワード フレイル、介護予防、難病、がん



公益財団法人長寿健康医療財团 健康長寿ネットより（HP更新日：2021年3月5日）
<https://www.tyoyuouji.net/topics/tokushu/chokoureshakai/chokoureshakai-frailtyboushi.html>

- ・フレイルとは健康と要介護状態の中間の段階です。フレイルは要介護状態になるリスクが高く、「身体活動」「栄養(食・口腔機能)」「社会参加」が関係しています。その中で「社会参加」に着目し、「社会参加」を通してフレイルを予防し、生きがいをもって生きることができる地域づくりを目指して研究しています。
- ・「病いとともにその人らしく生きるための支援」は、特に難病やがんの人の心理社会的支援について研究しています。



隅田 好美 教授

SUMIDA YOSHIMI

研究室Webサイト 活動の詳細



主な研究テーマ

社会福祉法人制度の研究

研究キーワード 社会福祉法、社会福祉法人制度、地域福祉



社会福祉サービスの供給体制は、多様な事業者の参入を認めているが、そのなかで非課税優遇の特別な取り扱いを受けている社会福祉法人は、いかなる役割を担うべきか。科学研究費補助金を受けて、社会福祉法人制度改革の趣旨および内容、制度改革のその後の展開を検証し、社会福祉法人制度改革の展望と課題について研究している。



関川 芳孝 教授

SEKIKAWA YOSHITAKA

活動の詳細



主な研究テーマ

身体障害者の心理社会的課題 質的調査法

研究キーワード 障害者、ライフコース、生涯発達、質的調査



運動機能障害を中心に、障害者の方々の心理社会的課題を、ライフコースや生涯発達の視点から研究しています。また、いくつかの自治体の、障害者施策に関与する様々な人々の相互関係、アイデンティティの生成を、フィールドワークによって調べています。さらに、これらの研究をする過程で、様々な調査方法を考えています。

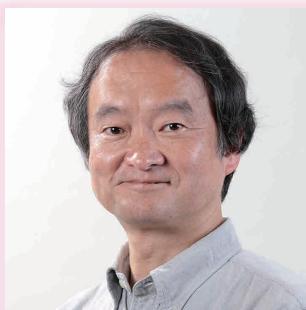


田垣 正晋 教授

TAGAKI MASAKUNI

研究室Webサイト 活動の詳細





西田 芳正 教授

NISHIDA YOSHIMASA

活動の詳細



主な研究テーマ

貧困・不利な人々の居住地域での子ども・若者の生活と教育の関連

研究キーワード 社会的排除、学校教育、移行過程

貧困やそれに近い生活背景をもつ子どもは早期に学校から離れ親と同様の大人の生活に移行していく傾向があります(不平等の社会的再生産)。その過程に学校教育がどのように関わっているのかを明らかにし、学習面や生活面の取り組みを通して大人の生活への移行を確かなものにするための方策を検討しています。研究の手法は、現地での参与観察と当事者へのインタビューを用いています。



東 優子 教授

HIGASHI YUKO

活動の詳細



主な研究テーマ

「性の健康と権利」をめぐる諸問題について研究

研究キーワード 性の健康と権利、ジェンダー、セクシュアリティ

1990年代半ば以降、活発に議論されるようになった「性の権利」の中でも、とくに「平等と非差別」「自律と身体のインテグリティ(保全・完全性・統合性)」「性の健康」「表現の自由」などに关心をもって研究しています。SEE(Sexuality Education and Empowerment)というプラットフォームを通じて、性教育に関する情報発信もしています。



山野 則子 教授

YAMANO NORIKO

活動の詳細 研究室Webサイト



主な研究テーマ

子どもの貧困、虐待に陥らない、誰一人取り残さない
(leave no one behind) 持続可能なユニバーサルな仕組みづくり

研究キーワード スクールソーシャルワーク、教育と福祉の協働、子どもの貧困、子ども虐待

親の孤立や貧困から虐待、さらに不登校や非行問題の発生など悪循環が生じている見えない子どもたちの状況に、すべての子どもを対象に誰一人、取り残さず、キャッチし、支援が自然につながる仕組みづくりというソーシャルワーク・マクロ実践にIoTやAIを活用した文理融合の研究に取り組んでいます。





主な研究テーマ

人々が心身ともに健康で幸福に生きるために支援方法を研究

研究キーワード 人間福祉、健康教育、身体教育、スポーツ科学



誰もが豊かな気持ちで幸福に過ごせる社会を実現する上で、人々の健康増進施策や指導は非常に重要であるにもかかわらず、その具体的な支援方法については発展途上であるのが現状です。私の研究テーマは、この人々の健康支援に関するを中心いて、健康福祉・健康教育・身体教育・スポーツ科学など、幅広い研究領域に関連した内容になっています。近年は身体組成の分析研究から健康的なダイエット方法などについて探求しています。



吉武 信二 教授

YOSHITAKE SHINJI

活動の詳細



主な研究テーマ

全人的総合的探究的な教育、多様でオルタナティブな学び場づくり

研究キーワード オルタナティブ教育、ホリスティック教育、シュタイナー教育、ケアリング



人間という存在の根本的な理解にまで遡って教育を問い直す(教育人間学、人間形成論)。そこから、全人の総合的な包括的教育観を構成する(ホリスティック教育)。そのような教育観に基づく、多様でオルタナティブな学習支援のあり方を探求し、具体的な学び場づくり(シュタイナー学校など)の事例に関するフィールド研究を行っています。併せて、学校教育に限らない人間の成長支援のあり方を、ケアや福祉の領域との接点において探求します。



吉田 敦彦 教授

YOSHIDA ATSUHIKO

活動の詳細



主な研究テーマ

家庭と労働市場における性別分業の実態と意識の変容の可能性

研究キーワード 性別分業、家族の変動、社会意識、ジェンダー



ジェンダー平等の実現に向けて、労働市場や家庭における性別分業の実態を把握することが重要であり、量的データや質的データを用いて性別分業の実態を実証的に明らかにし、性別分業が維持され続けるメカニズムとその要因の解明を目指しています。ケア・介護の規範の変化や規定要因を全国規模の調査データを用いて計量的に明らかにすることも行っています。



乾 順子 准教授

INUI JUNKO

活動の詳細





木曾 陽子 准教授

KISO YOKO

活動の詳細



主な研究テーマ

障がいのある子どもの保育、困難を抱える保育者や保護者の支援

研究キーワード 障がい児保育、保護者支援、保育者支援

保育所や認定こども園などを主なフィールドとしながら、子ども・保護者・保育者の3者が、共によりよく生きるために研究をしています。現在は、発達障がいのある子どもの保育と保護者支援、保育者の早期離職を防止する園内体制、保育所等における生活困難家庭への組織的支援などをテーマとしています。いずれも子どもに関わる保育者や保護者が困難を抱えており、その困難さを支援することが子どもにも影響すると考えています。



嵯峨 嘉子 准教授

SAGA YOSHIKO

活動の詳細



主な研究テーマ

貧困対策および最低生活保障制度を中心とする社会保障制度の検討

研究キーワード 貧困、所得保障、公的扶助、貧困対策

貧困の状態にある人々に対して最低生活を保障するための政策的課題を検討しています。家賃滞納で住宅喪失のおそれのある人々など、貧困の状態にある人々の生活困窮のサインをどのように把握し、どう政策的に対応するのか、その支援の在り方に関心を持っています。



内藤 葉子 准教授

NAITO YOKO

活動の詳細



主な研究テーマ

ケアの倫理と尊厳、身体性と主体性の関係を問うジェンダー研究

研究キーワード ジェンダー、フェミニズムの思想、ケアの倫理、政治と倫理

研究の一つの軸はジェンダーの視点から思想的・哲学的なテーマを扱うことです。思想史の中で女性がどのように語られ、また語ってきたかを問う研究、ケアの倫理から依存概念や人間の尊厳について問い合わせる研究をしています。もう一つの軸は20世紀前半のドイツの思想状況の分析です。第一波フェミニズムにおいて女性の身体性や主体性がどのように論じられたかを問う研究のほか、政治と倫理の関係に関する政治思想研究も行っています。





主な研究テーマ

社会福祉におけるオルタナティブ実践の意味

研究キーワード セルフヘルプ・グループ、オルタナティブ、ソーシャルワーク、オートエスノグラフィー



クライシス（心の調子が崩れてどうしようもない状態）にあるときに、精神科病院などの利用を回避するための、当事者運営の短期滞在型施設（アメリカ・ニューヨーク州のRose House）

生きづらさをもつ本人（当事者）たちが専門職者から独立して展開するオルタナティブ実践（セルフヘルプ・グループ【自助グループ】など）が人々にとってどのような意味をもっているのかを研究しています。また、そもそも、対人援助専門職者や研究者にとって当事者体験がどのような意味をもっているのかも研究しています。



松田 博幸 准教授

MATSUDA HIROYUKI

[活動の詳細](#)



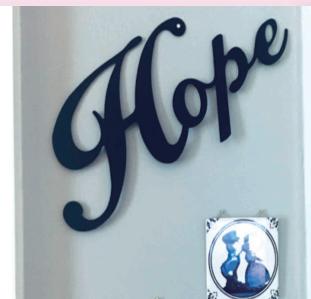
主な研究テーマ

障害者の地域生活と社会的入院・入所の解消に関する研究

研究キーワード 精神障害、知的障害、当事者主体、権利擁護



精神障害、知的障害のある人たちが、自分で選んだ場所で自分らしく生きる権利があると障害者権利条約では明記されているのに、日本では世界的にも突出する大人数が長期間、閉鎖された精神科病院や入所施設にいます。そこで失った誇りや希望を再び取り戻すために、さらには社会的入院・入所をなくすために何が必要なのか、当事者とともに考える研究を行っています。



三田 優子 准教授

MITA YUKO

[活動の詳細](#)



主な研究テーマ

教育・福祉における優生思想史と能力主義的言説の批判的検討

研究キーワード 「他者」概念、優生思想、新教育、特別支援教育



教育によって「他者」を操作しようとする設計的人間観、「できること（できるようになること）」の価値を重視する能力主義、能力主義と競争原理に基づいて人間を序列化して格付けする思想について、歴史的・原理的な観点から批判的に考察しています。
子どもを評価しない、競争させない教育の在り方について関心を持ち、「多様な学び」や「特別支援教育」の実践ともかかわりを持って研究しています。



森岡 次郎 准教授

MORIOKA JIRO

[活動の詳細](#)





吉田 直哉 准教授

YOSHIDA NAOYA

[活動の詳細](#)



主な研究テーマ

乳幼児期の保育カリキュラム研究、園内環境の構成研究

研究キーワード 保育学、子ども学、保育カリキュラム、保育環境

保育学、子ども学をテーマとしています。広い意味での人間形成と、社会環境との関わりを考えていくことを目指しています。子ども時代というのは、誰しも皆経験してきたはずなのですが、成長と共に多くのことを忘れ去ってしまい、大人になってから見ると、子どもは巨大な謎となって私たちの前に立ち現れます。哲学、心理学、社会学、教育学などの研究成果に学びながら、多角的・多元的に子どもという現象を捉えようと試みています。



吉原 雅昭 准教授

YOSHIHARA MASAAKI

[活動の詳細](#)



主な研究テーマ

認知症とともに生きる本人の支援。本人の環境への影響力の拡大

研究キーワード 認知症とともに生きる人、パーソンセンタードケア、自治体計画、国際比較研究（スウェーデン）

日本では認知症は「恐怖の対象(phobia)」になっています。認知症とともに生きる本人の思い、声、人権が尊重される状況にはほど遠く、これまで研究、支援の実践、政策は、いずれも医学／治療モデルに偏り、社会科学も含め、研究の大半は介護家族と援助職を対象としてきました。しかし近年は日本でも本人たちの組織が活発に活動し、政府や社会に影響を与えており（日本認知症本人ワーキンググループ）。私はスウェーデンとの比較研究も行い、「パーソンセンタードケア」を中心とした実践、政策研究の必要性を痛感しています。現在は、自治体が策定する認知症支援計画の日本、スウェーデン比較等を行っています。



東根 ちよ 講師

HIGASHINE CHIYO

[活動の詳細](#)



主な研究テーマ

小地域を基盤とした子育て支援活動に関する研究

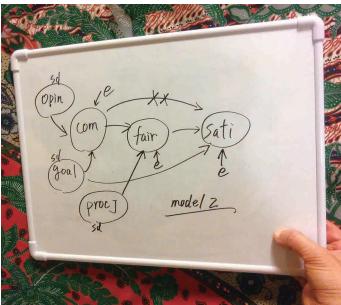
研究キーワード 地域福祉、子育て支援活動、包括的支援

人が望む地域で暮らすための包括的な支援体制について研究しています。少子高齢化が急速に進展し、家族のありようやライフスタイルが変化するなか、地域を基点に社会福祉を捉え直していくことが、いっそう求められています。そのようななか、私自身はこれまで、子どもや家庭を取り巻く問題に、地域福祉がどのようにアプローチできるのかに強い関心を抱いてきました。政策と事例、両方を行き来しながら研究に取り組んでいます。

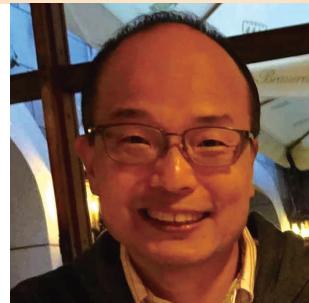


主な研究テーマ

仕事における評価と動機づけ

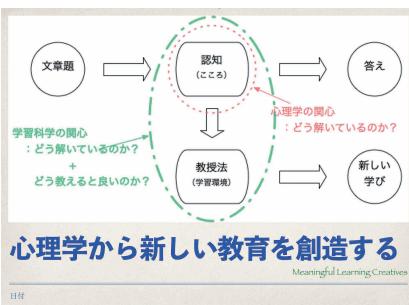
研究キーワード 動機づけ、組織行動、公正さ


組織心理学の立場から仕事への評価・満足と動機づけについて調べています。報酬が多い人や評価が高い人がなぜ必ずしも頑張って働くとは限らないのでしょうか。報酬や評価に関わらず一生懸命働くのはなぜでしょうか。評価が低かった人がなぜ評価にしぶしぶではあっても納得してくれるのでしょうか。このような評価や満足と動機づけの問題について実際の仕事場面において検討しています。


井手 亘 教授
IDE WATARU
[活動の詳細](#)

主な研究テーマ

認知発達と教授学習過程に関する心理学的研究

研究キーワード メタ認知、算数・数学の認知過程、表象操作とジェスチャーの発達


ヒト、特に子どもはどう学ぶかを明らかにした上で、どう教えると良いのかについて研究しています。主な対象は、幼児から小学生、中学生頃までの子どもですが、大学生の学習プロセスなどについても研究しています。私たちの研究は、学校での教育実践と深く結びついているため、基礎的な心理学研究を進めながら、基礎研究の知見を利用した新しい教育方法についても研究を進め、小・中学校の先生方と一緒に授業作りにも取り組んでいます。


岡本 真彦 教授
OKAMOTO MASAHIKO
[研究室Webサイト](#) [活動の詳細](#)

主な研究テーマ

夢や箱庭、描画などイメージを介した心理療法の事例研究

研究キーワード 箱庭療法、夢分析、イメージ、身体性


心理療法とは自分についての気づきを拓げていく営みです。その中で、自分が気づいていないことでもイメージによって表現すると気づくことができて、心の在り方が変化するという現象があります。そのメカニズムについて事例研究という方法でアプローチしています。また、心理検査の中の投影法の一つであるロールシャッハ法についても、その反応過程を研究しています。


川原 稔久 教授
KAWAHARA TOSHIHISA
[活動の詳細](#)




総田 純次 教授

SODA JUNJI

活動の詳細



主な研究テーマ

精神病理学の視点から「病気」であることや各種病態の本質を問う

研究キーワード 精神病理学、精神分析、現象学的解釈学

精神病理学とはいわば精神医学における哲学のようなものです。そもそも精神の領域で「病気である」とはどういうことなのか、「統合失調症」であるとは、「うつ病」であるとはどういうことなのかといった本質論を扱っています。こうした本質論が同時にそれぞれの病態に特異的な精神療法的なアプローチを示しているというのが私の独自のスタンスだと考えています。



野津 亮 教授

NOTSU AKIRA

活動の詳細



研究室Webサイト



主な研究テーマ

認知、情報、コミュニケーションという観点からの学習・最適化

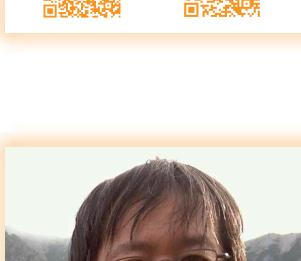
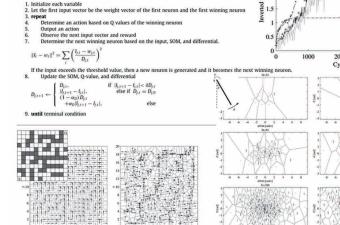
研究キーワード 認知科学、情報処理、最適化、学習

最適化・学習アルゴリズムは、人が持つ認知の枠組みを情報学的に洗練することで発展してきました。様々な計算アルゴリズムに認知的な視点から修正を加えていくことで、効率的な出力をさせることができるようになります。このように認知の仕組みをヒントに、効率的な学習や良い適応方法、新しい計算アルゴリズムといったものをコンピュータシミュレーションによって確認し、人に優しい環境・AIを探求しています。

強化学習のための成長型SOM

<https://doi.org/10.1186/jasoc.2020.196723>

The proposed algorithm (2020-04)



牧岡 省吾 教授

MAKIOKA SHOGO

活動の詳細



研究室Webサイト

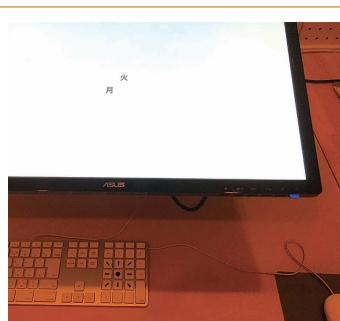


主な研究テーマ

共感覚が生成されるメカニズムに関する研究

研究キーワード 共感覚、記憶、意識、身体化認知

専門分野は認知心理学・認知科学です。数字や曜日などが並んで見えるイメージが自動的に喚起される空間配列共感覚について、心理実験と神経回路モデルを使って探究しています。共感覚に関するシミュレーションモデルを世界で初めて提案し、最近は、共感覚を持たない人の中でも共感覚者と同様な仕組みが働いているらしいことを心理実験で解明しました。授業ではヒトの心という観点からサステイナビリティについて考察します。

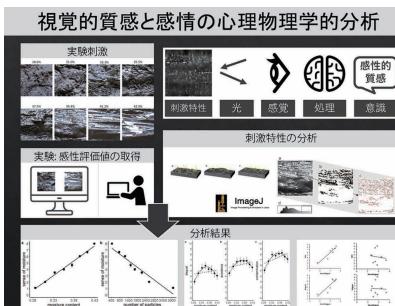




主な研究テーマ

感情や感性の心理物理学的分析とその応用

研究キーワード 感情、感性的質感、心理物理、心理査定



感性や感情といった意識的な「感じ方」は、刺激の物理的な性質だけでなく、その個人がもつ認知・感情・行動的な傾向や、その時々の心理学的な状態によっても影響される場合があります。こうした影響の仕方を、心理物理学や認知科学等の方法で検討しています。そこから、任意の感じ方を引き出すための工夫を考えたり、精神疾患に伴う感じ方の変化を理解したり…といった応用的な課題にも少しづつ取り組んでいます。



岩佐 和典 准教授

IWASA KAZUNORI



主な研究テーマ

心理臨床面接におけるイメージ体験とその表現プロセス

研究キーワード 心理臨床面接、イメージ、身体感覚



私はこれまでクライエント(来談者)が心理臨床面接の中でイメージを体験し、それを表現するプロセスでは何が生じているのか、そしてそれがクライエントにどのように寄与しているのかについて興味をもってきました。特にイメージを表現するものとして、箱庭、夢、描画に注目していますが、それだけではなく言葉や遊びも自己を表現する重要なツールとして捉え、実践および研究をしています。



片畠 真由美 准教授

KATAHATA MAYUMI



主な研究テーマ

老いや精神疾患に伴う認知機能変化に関する研究

研究キーワード 認知症、認知加齢、実行機能、高齢運転者



老いることと病いを得ることはどのように異なるのでしょうか。加齢に伴う認知機能や行動の変化に着目して考えます。得られた研究知見を臨床場面に生かす視点に立って、新しいアセスメント手法等の確立や流通に関わる検討も行います。



河野 直子 准教授

KAWANO NAOKO





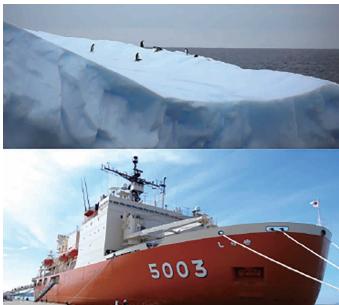
川部 哲也 准教授
KAWABE TETSUYA

[活動の詳細](#)

主な研究テーマ**心理療法の実践と発達障がいのある人が持つ記憶について****研究キーワード** 心理療法、発達障がい、特殊環境

夢やイメージを通して人のこころを理解しようと考え、心理療法を実践しています。日々の臨床現場から出てきた問い合わせるために、発達障がいのある人が持つ特殊な記憶について研究を進めています。最近は、臨床で語られるサブカルチャーや世界観、そしてコロナによって発展を見せたオンライン面接についても検討を行っています。

また、南極越冬隊員の心理研究として、隔離閉鎖環境における心理状態についても研究を進めています。

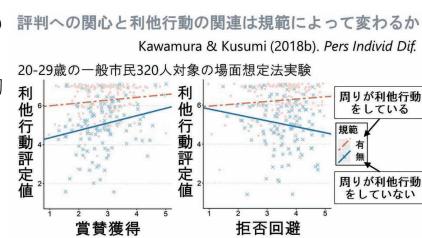


河村 悠太 准教授
KAWAMURA YUTA

[活動の詳細](#) [研究室Webサイト](#)

主な研究テーマ**実証的研究を通してヒトの向社会性の有り様を探る****研究キーワード** 向社会的行動、利他性、評判

「周りのため」と思って取った行動が必ずしも人のためになるわけではありません。逆に、自分のためだけを考えて取った行動が、結果的には他者に利益をもたらすこともあります。このような、利他と利己のあわいを社会心理学・進化心理学的観点から研究しています。



高橋 幸治 准教授
TAKAHASHI KOJI

[活動の詳細](#)

主な研究テーマ**イメージの創造性や身体性に着目した心理療法の研究****研究キーワード** イメージの創造性、身体性、教育現場での臨床、イメージを利用したグループアプローチ

無意識からの産物としてのイメージは心理療法において様々な表現形態をとります(描画、箱庭、創作物、語りなど)。それらのイメージの創造プロセスの守り手に心理臨床家がいかになり得るかということ、またイメージ、無意識と深い関係のある身体性に着目することで、心理療法の可能性を追及することを模索し考えています。また、教育現場での心理療法的関わりやイメージを利用したグループアプローチについても実践し考えています。





主な研究テーマ

ストレスフリーの建築環境創出に向けた心理学的研究

研究キーワード 溫熱環境の快適域、景観の違和感、体感温度



豊かな空間を創出するには、人の空間の捉え方や、生理的な反応の特性を知らなければなりません。過度な冷暖房や、熱中症を引き起こすような温熱環境が人体に及ぼす影響を明らかにし、その予防策の考案に取り組んでいます。また近年は、既存の景観に趣の異なる建物が加わることで生じる景観論争に、違和感の観点から切り込み、景観保全の在り方について検討しています。



飛田 国人 准教授

TOBITA KUNIHITO

研究室Webサイト

活動の詳細





現代システム科学域

入試に関する情報はこちら
大阪公立大学 入試情報サイト
<https://www.upc-osaka.ac.jp/new-univ/admissions/ug/>



企業からの技術相談はこちら
大阪府立大学 Web サイト 産学官連携推進制度
<https://www.osakafu-u.ac.jp/research/collaboration/system/>

